



子どもたちに環境問題への意識の芽生えを促す活動

島根県 株式会社 丸三 「学校等への書籍・種苗の贈呈、 環境学習補助」事業



株式会社 丸三
代表取締役会長
白神 文樹さん



社員による読み聞かせ

丸三エコプロジェクトで 環境学習を支援する

島根県を中心に17ホールを展開する株式会社丸三。「地域社会に貢献する企業」を企業理念に掲げ、さまざまな社会貢献活動、地域貢献活動を実施しているが、環境問題への取り組みも企業の社会的責任との思いから、しほねCO₂ダイエット作戦に参画したり、地域清掃ボランティアなどに積極的に取り組んでいる。

さらに、地域の子どもたちに環境問題に興味、関心を持ってもらうとともに、たくさんの学びの場を提供したいという考えから、地域の幼稚園や保育園、小中高等学校、特別支援学校における環境学習や環境保全活動に対して物品寄贈や活動費の補助などを行う「丸三エコプロジェクト」に力を入れている。

主な活動は、自然や環境に関する書籍の贈呈、樹木・種苗・用具などの贈呈、環境学習や環境保全活動などの費用を補助する環境学習等補助、ビオトープ（生物空間）の造成・修繕・周辺整備などの費用補助である。

当初これら贈呈や補助にあたっては、島根県教育庁義務教育課と協議したうえで、募集案内パンフレットを作成し、出雲市教育委員会などの協力を得て、校長会の場などで配布してもらい募集していたが、現在は会社HPからも直接応募することができる。補助を受けた学校は、活動終了後に所定の活動報告書を提出するが、それとは別に、



2015年は46カ所の幼稚園や保育園などに書籍を寄贈



スタッフによる読み聞かせは子どもたちに好評である



小学校に種苗などを寄贈しスタッフと生徒と一緒に植える活動も行っている

子どもたちや学校関係者から感謝の言葉も多く寄せられるという。

書籍の贈呈とともに 子どもたちに読み聞かせも

丸三エコプロジェクトの活動のうち、最近、特に要望が多いのが書籍の寄贈だという。これは、2013年4月に保育園に幼児向けの図書を寄贈したのがきっかけで、その様子がテレビ報道を通じて広く知られるようになり、それ以後、各地域の学校や幼稚園などから書籍の寄贈の希望が年々、増加するようになった。2013年には7カ所の学校や幼稚園へ寄贈したが、2015年にはそれが46カ所に増え、活動を継続して欲しいという要望も多く寄せられているという。

また、書籍の寄贈にあたっては、本社社員や校区内にあるホールのスタッフなどを1施設につき1～5名派遣し、贈呈式を行うとともに、幼稚園や保育園などでは贈呈した書籍や絵本の読み聞かせ活動も行っている。種苗などの贈呈でも、やはりスタッフが赴き、子どもたちと一緒にその植え付け作業を行うという。

寄贈してくれる人が実際に自分たちの目の前に登場して読み聞かせる活動は、子どもたちに好評である。

昨年7月15日に出雲市立塩冶幼稚園で絵本の贈呈と読み聞かせが実施されたが、参加した年少から年長までの100人以上の全園児が熱心に読み聞かせを聴きながら、スタッフの問いかけにも元気よく答える姿があったという。贈呈式の最後には、お礼として園児たちから歌のプレゼントがあった。

環境問題はすぐに解決できるという問題ではないが、こうした活動をコツコツと積み重ねることで、子どもたちのなかに環境問題に対する意識が芽生える。今後も、丸三エコプロジェクトの主体的な取り組みを期待したい。